

シラチャ校だより

泰日協会学校シラチャ校
2024. 2. 29



1. 教育における不易と進化 ICT と AI に向き合う学校

シラチャ日本人学校 校長 藤枝茂雄

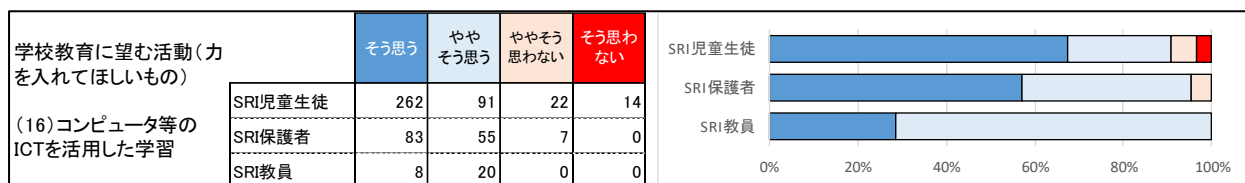
いつの時代のどの分野にも「不易と流行」という言葉は存在する。私が新採用の時に初任者研修を担当していた県教委の先生が『『今どきの若者は・・・』に近い表現は、今から 2000 年以上も前の中国の孔子の時代からあった』と言われたのをよく覚えている。かつては「新人類」という言葉も流行ったが、今やその人たちも 50 歳代だろうか。「今どきの若者」の人たちからみると、彼ら、彼女らも、すっかり保守的な人々になっているかもしれない。

さて、教育現場においては ICT（情報とコミュニケーションのテクノロジー）の活用がどんどん進み、さらに AI（人工知能）活用の可能性を予感させる大平原が広がっている印象である。実際に入手可能なアプリケーションの中には、英語のリーディング問題を AI に読み込ませて認識させ、子どもたちが音声を入力すると、間違った発音がなされた部分と、それを修正するポイントまでもが「助言」として文章の形で提示されるものがある。音楽においても、情景や心情をイメージした複数のキーワードやテンポを指示する要素を入力すると、全く楽譜の読めない人にでも作曲ができる時代になっている。教育現場は、この AI という新たな「怪物」に対してどのように「人間らしさ」を担保しながら向き合っていくかという難しい課題に直面しつつある。

一方で、ICT 活用のデメリットも教育現場では認識されている。例えば、鉛筆でノートに書いたり、自らの手で辞書を引いたりする学習に比べて、ディスプレイ上の情報は非常に短時間しか視界にとどまることなく目の前を過ぎ去っていく。さらに、検索機能を使えば常に直線的に必要な情報にたどり着けるため、一見無駄なように思える周辺情報への「寄り道」がない。そのため、知識を得るためにかかる時間は短いが、得られる内容は薄いうえに、知識としての定着力も弱い。漢字も覚えにくいだろうし、キーボードに慣れてしまうと手書きの美しい文字もなかなか身に付かないかもしれない。視覚器官への負の影響も紙の印刷物よりはディスプレイの方が大きいとされている。

そのような課題はあるのだが、今回実施した学校アンケートによると、学校教育における

ICT 活用への期待や重要性の認識を反映するポイントはとても高い（質問項目（16）参照）。



この実態を踏まえながら、本校では、いかにして「新」（未来型）と「旧」（従来型）の良さを生かしたハイブリッドな（複数を掛け合わせた）コミュニケーションを築いていくかを模索している。

その答えの一つが2月14日（水）に第5学年が実施した国内の学校とのオンライン交流といえるだろう。この交流には、ユニークな「ハイブリッドなアイデア」が取り入れられていた。それは、交流相手校の子ども達が力を入れて紹介したい地域の特産品の実物を事前に航空便で送付してもらうなどして、お互いの教室に用意し、それを実際に食べながら、ディスプレイ上の言葉や動画では伝えることができない味や香り、食感を肌で感じるという「ICTと人間の五感」のハイブリッドである。



アイスブレーキングとして、以心伝心ゲームを行いました



2種類のあずきを食べ比べています

本校の教室に用意されたものは、交流校の亀岡川東学園小学校（京都府亀岡市）から送られてきた特産品のあずき「馬路大納言」から作った「あん」と、タイのあずきから作った「あん」の二種類。これらを食べ比べながら、「AとBのどちらが馬路大納言？」というクイズに、その場で両校の児童がグーグルフォームから回答してお互いの結果を見て楽しんだり、「千二百年も前から宮中に献上されるほど有名だった希少な馬路大納言を守り続けていく方法を一緒に考えていこう」という将来の交流テーマに話題が及んだりしていた。

「ICTやAI」の活用と「人間の五感（知覚）」の発達とのバランスに関する「教育にとっての最適解」を模索する作業は当分続いていくだろう。

2. 学校評価アンケートの結果の公表

1月上旬に実施した「学校評価アンケート」の結果を集計したものを、2月16日（金）にシラチャ校で開催された学校理事会で報告した。全体的には、ほぼ例年と大差のない肯定的割合の高い結果であった（文末の「集計結果」グラフ参照）。

シラチャ校特有の傾向と言えるものとしては、濃い青で示された最も肯定的な「そう思う」の部分に関して、比較妥当性のある関係11項目（問1、3～5、7～12、14）すべてにおいて「児童生徒」ポイントに比べて「教員」ポイントがかなり低くなっているという点である。本校の実態や教員からの聞き取りをもとにその理由を分析すれば、教員自身が目標や理想を高く持ち、子どもたちの到達度を保障しようという姿勢があることも関係していると思われる。

項目(16)の「学校は体力向上に努めている」は、保護者においてネガティブな回答が15ポイント程度存在している。この項目については、毎回同様の傾向が見られる。子ども達の実態として、体力テストの得点が国内公立学校の同学年の児童生徒の平均よりも高くない児童生徒も一定数存在していることも背景にあると考えられる。

体力や運動における国内公立学校との差異については、日本の小学校では登下校が徒歩で行われていること、サッカー、ミニバスケット、スイミングなどの地域スポーツが盛んであること、中学校においてボリュウムの大きな部活動が行われていることなどが要因として考えられる。（※部活動は、現在、学校教育から地域スポーツへの移行が図られつつある。）

それらを考慮すると、子ども達の体力の向上については、学校教育の枠組みだけでなく、家庭においても運動機会を保障すること、社会体育（地域スポーツなど）を充実させることの三本柱で考えていく必要があるだろう。

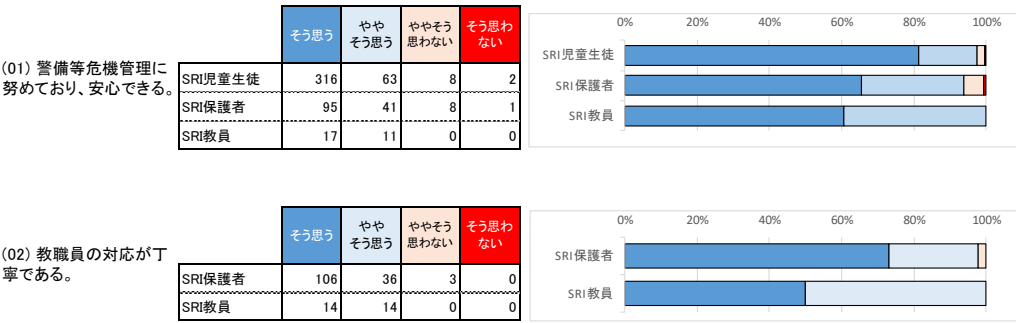
本校では、下校時の確実な児童生徒の保護者への引き渡し等、安全面での管理を最重要事項としていること、それに加えてタイの労働関係法の枠組みも考慮すると、限られた人的資源（労働の総量）をどの部分に重点的に配分するかということについては、おのずから優先順位が決まってくる。さらに、教員の業務の過密、子どもたちの活動の過密も、それが常態化すると、慢性的な体調不良、レジリエンス（復元力）機能の低下などのメンタルヘルスを含めた健康面への影響がじわりじわりと顕在化してくる。とりわけ慢性疾患や原因不明の心身の不調の症状のある人にとっては、「学校」という本来ならば楽しいはずの「居場所」にすることがしんどく感じられるようになる。

これらのことを踏まえながら、教育の質だけでなく、働き方の面でも日本の公立学校にみられる「枠組み」を再検討、及び再構成し、教育的効果と働き方改革双方の実効性を高める取組を進めていきたいと考えている。

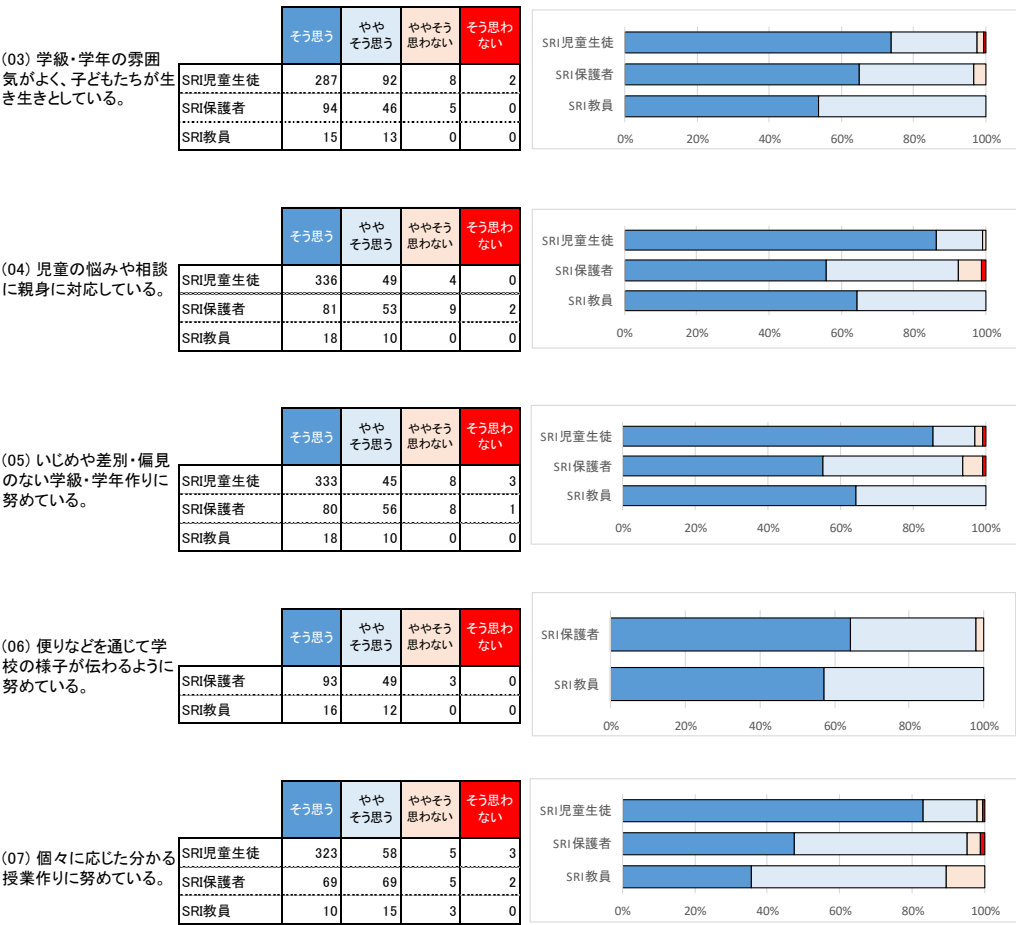
上記の通り、国内の新しい教育に関する理論や知見を取り入れつつ、より高い理想や目標に向かってしっかりと教育を進めてまいりますので、引き続き保護者の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いします。

2023年度実施 シラチャ校 学校アンケート 集計結果

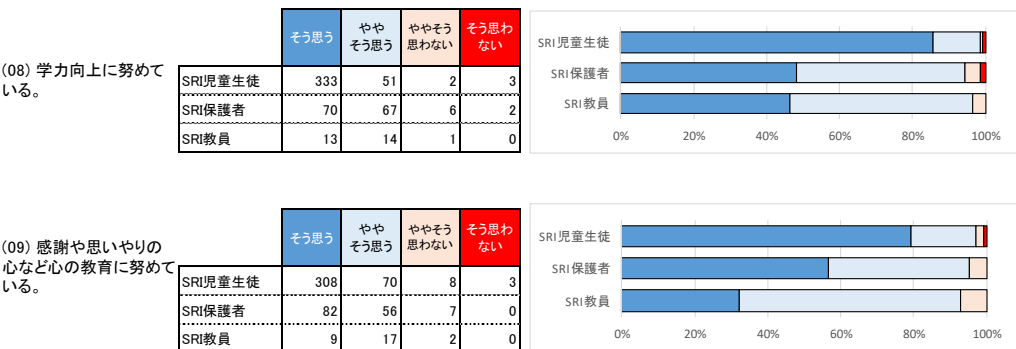
1 学校全般に関すること



2 学年・学級に関すること

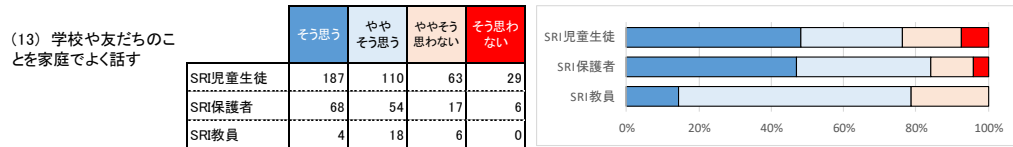


3 学習に関すること

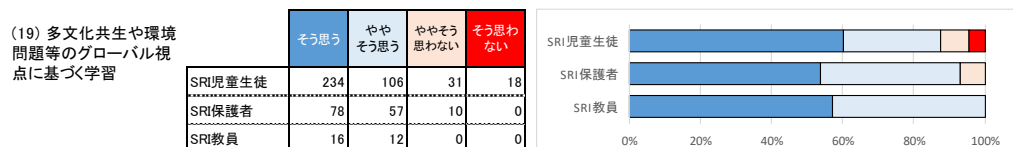
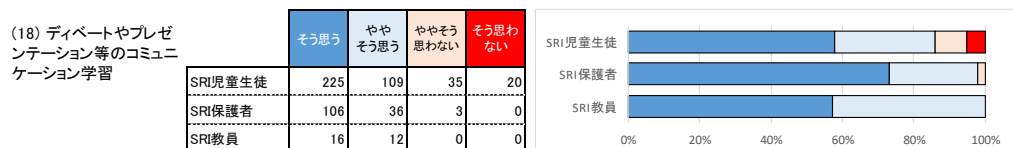
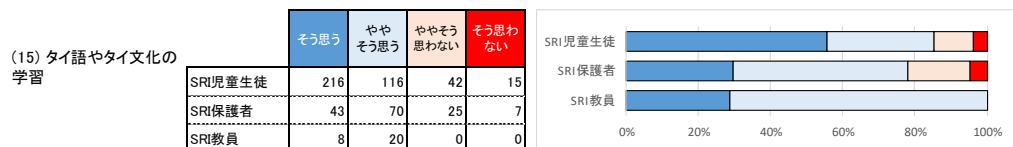




4 児童生徒に関すること



5 学校に望む教育に関すること (力を入れてほしいもの)



知的好奇心を引き出そう

知的好奇心をどうすれば育むことができるのか。仕事から、そのことに思いを巡らせることがよくあります。

今年度の3年生は、11月にイオンスーパーマーケットへ、1月にはロッテ工場へ校外学習に行ってきました。校外学習をより実り豊かな機会にするために、「〇〇の様子を調べてきたい!」と、それぞれの児童が見学の目的を明確にして臨みました。

例えば、「コアラのマーチの中のチョコレートはどうやって入れるのか。」について予想する機会を設けました。「たこ焼き方式で、下側のクッキーを焼いてからチョコレートを入れて、上側のクッキーをかぶせるよ。」「注射器のようなもので入れているんじゃない。」「そういえば、クッキーの絵柄の反対側に小さな穴があいていたよ!だから…」などなど、想像を膨らませながら、工場見学に臨みました。見学中はもちろんのこと、見学後の質問タイムでも、関心をもって学ぶ3年生の姿が見られ頼もしく感じました。

学校に戻ってからは、校外学習のしおりに書き込んだメモを眺めながら、六角形のまとめ新聞（コアラのマーチ型）に生き生きと記事やイラストをかくことができました。スーパーマーケットのまとめ新聞をイオン店内で掲示していただけたこともよい思い出となりました。

これからも校外学習に限らず、知的好奇心を引き出せるように試行錯誤しながら、毎日の授業を子どもたちと楽しんでいきたいと思っています。

文責 第3学年主任 成田 潤一



修学旅行を終えて — 過去を知り・現在を把握し・未来を創る —

1月10日（水）～12日（金）の3日間、シラチャ校8年生はチェンマイ・チェンライ方面へ修学旅行に行ってきました。ねらいの1つ目は、「過去を知り・現在を把握し・未来を創る」— つまり、タイの歴史や生活、文化等に関する知識や見聞を深めることにより、身近なところにある課題を発見し、自分に何ができるかを考えて、世界に貢献する気持ちや態度を育むことです。2つ目は、「自主・自律・協調性」— 社会性の基礎となるこれら3つのものを大切にしながら行動する態度を育てるというものでした。

この修学旅行は、今年度の8年生が総合的な学習の時間（以下「総合」と記す。）で取り組んできた「故郷のアンテナショップの紹介」（1学期）と、それに続く「東南アジア諸国の魅力をアンテナショップで発信しようという学習」（2学期）との関連性を強く意識しながら実施しました。

8学年の生徒たちは、それぞれが「衣食住に関する領域」「社会、文化、宗教に関する領域」「自然、健康、環境保護に関する領域」「産業や行政、外交に関する領域」という4つの領域からテーマの一つを選んで探究を進めており、それと関連付ける形で、10月には事前学習を兼ねてラチャパット大学のプーワナット・スリトン先生から、修学旅行で学ぶ3つの柱「保護が必要な動物（象）」「少数民族の歴史」「アヘンの歴史」の講義を受けました。11月の「総合」の学習成果中間発表会では、今後の探究学習の参考になる意見をお互いに交換することができました。

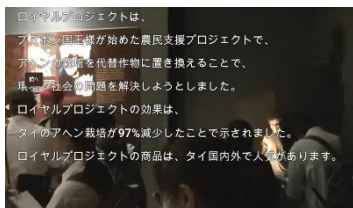
訪問先のチェンマイ、チェンライでは、積極的に質問をする生徒の姿だけでなく、自分の研究にどの部分に関連付けることができるだろうか、自分には何ができるだろうか考える生徒の姿も伺えました。山岳少数民族であるモン族のドイプイ村では、実際にモン族の衣装を着ることで、誰もがその美しさに心を奪われました。モン族の衣装作りや経済的なことに関するインタビューの場面では、一心にメモを取る生徒の姿が印象的でした。集合場所までの下り道で、お土産を友達と相談しながら買い物をする時間も楽しそうでした。

象の保護施設「エレファント・ネイチャーパーク」では、象たちがこの場所に連れて来られた経緯と現在の象たちの健康状態を知って、心を痛めました。「アヘン博物館」では、アヘンの恐ろしさを実感し、「ゴールデン・トライアングル」では、かつてこの地がどのような場所であったかをしみじみと感じ、これから自分に何ができるかを考えることができたと思います。

実際に現地へ行って学ぶことが大変有意義であることを感じた修学旅行。ここで学んだことを、今後の「総合」での学習や、生徒それぞれのこれからの生き方に繋げてほしいと考えています。また、この旅行は、仲間の大切さに気づき、互いを思いやることができた3日間でもありました。

今後、一人ひとりの生徒が仲間と過ごしたかけがえのない時間を思い出の1ページとして心に刻んでほしいと願っています。

文責 第8学年主任 青木 奈緒美





第15回卒業式

日 曜	児童・生徒の予定	バス時刻
1日 (金)	小卒業式予行	14:20 P1-2 15:25 P3-6 M1-3
2日 (土)		
3日 (日)		
4日 (月)		14:20 P1-3 15:25 P4-6 M1-3
5日 (火)	購買(注文票配布日) 卒業式前日準備(卒業生5時間下校)	14:20 P1,6 M3 15:25 P2-5 M1-2
6日 (水)	卒業式【6・9年学級だより】【学校だより】	10:00 P5 12:05 M1-2
7日 (木)	中学部生徒集会 全校5時間授業 購買(注文票提出日)	14:20 P1-5 M1-2
8日 (金)	全校3時間授業 修了式 離任式【小:学級だより】【中:学級だより】	11:25 P1-6 M1-3

3月6日(水)は、第15回卒業式が行われます。6年・9年の児童生徒のみなさんは、これまで学部リーダーとして、シラチャ校の代表として、大きな力を発揮してくれました。そして、交流学習会やシラチャ祭などの学校行事では、下級生のお手本となり、行事の大成功に貢献してくれました。ぜひ、ここシラチャ校で学んだことを財産として、素敵な未来を築いていってください!! 卒業式では、みなさんの最高の晴れ姿が見れることを楽しみにしています。

なお、小学1～4年生はこの日はお休みとなります。5年生と7、8年生は在校生として式に参加をします。お弁当なしの早めの下校となります。5年生は10時00分、7、8年生は12時05分のバス発車となります。ピックアップも、同じ時刻にお迎えをお願いします。

修了式

3月8日(金)は修了式です。学期ごとに行われる、終業式とは異なり、その学年の教育課程(学習内容)を全て修めたことに対して行われるものです。式の後には、児童生徒のみなさん一人ひとりに通知表と一緒に修了証書が渡されます。この1年間いかがだったでしょうか?きっと1年前の自分と比べると、色々な面で成長できたことと思います。ぜひ、最後まで共に切磋琢磨してきた仲間や、お世話になった先生との時間を大切に過ごしてほしいと思います。

離任式

3月8日(金)は、本年度シラチャ校を離任する教職員の離任式も予定しています。卒業学年の6年生と9年生も参加することができます。参加の有無についての確認の 구글フォーム を6、9年生対象に2月23日に配信していますので、3月4日(月)までにご回答いただきますようお願いいたします。

退学時プレゼントについて

例年、お子さんが退学される保護者の方から「お世話になった学級の友達にプレゼントを渡して良いですか?」という質問が学校にきます。多くの子どもが編入したり、退学したりしていくのは日本人学校の宿命です。お気持ちは理解できますが、一度それを認めると、プレゼントを交換することがお子さんの編入・退学時の慣例になってしまいます。編入・退学時の学校でのプレゼントの受け渡しは行わないよう、学校としては保護者の方々にこれまでもお願いをしております。保護者の皆様のご理解とご協力を願います。

2024年度年間行事予定

2024年4月からの年間行事予定を3月1日(金)にグーグルクラスルームに配信します。各学年の校外学習等の日程につきましては、調整後に掲載します。また、変更等がありましたらお知らせをしますので、よろしくお願いします。

